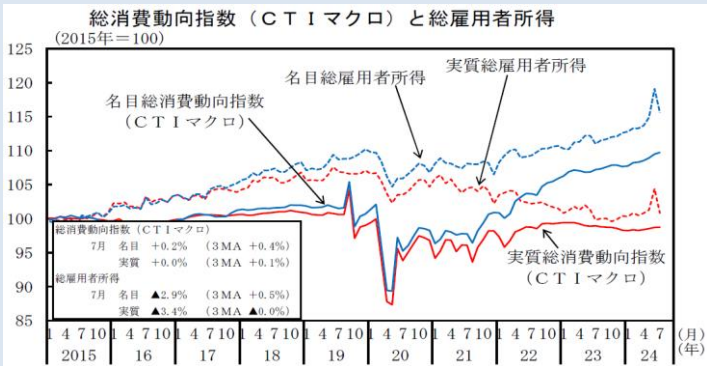
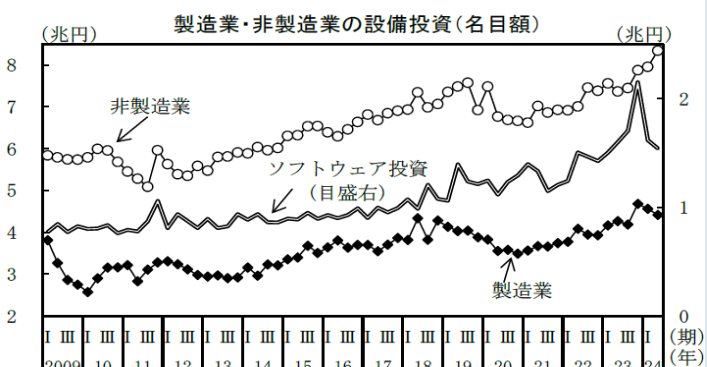
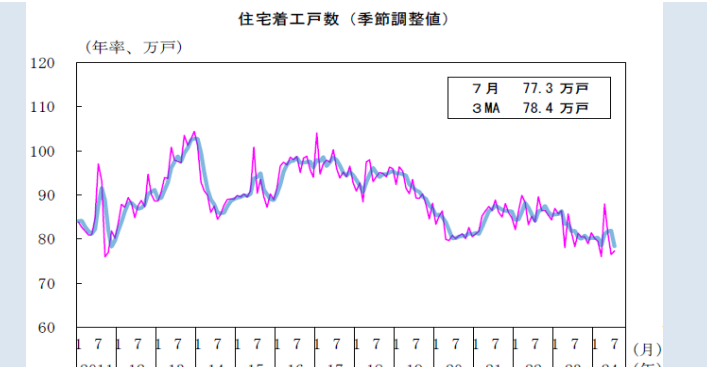
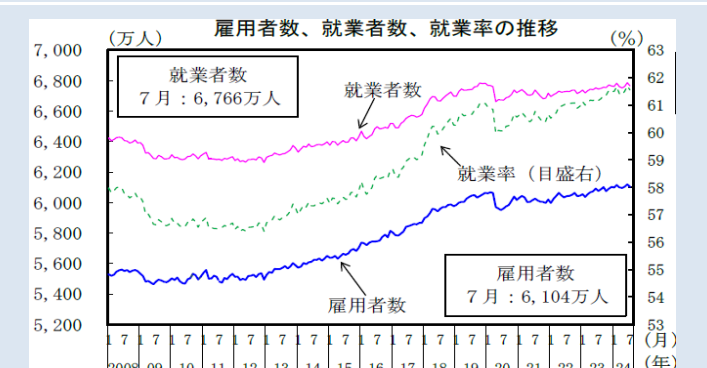


● 月例経済報告（9/18）

基調判断	(9月)	景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。	
	(8月)	景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。	
個人消費	(9月)	一部に足踏みが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる。	
	(8月)	一部に足踏みが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる。	
設備投資	(9月)	持ち直しの動きがみられる。	
	(8月)	持ち直しの動きがみられる。	
住宅建設	(9月)	おおむね横ばいとなっている。	
	(8月)	おおむね横ばいとなっている。	
雇用情勢	(9月)	改善の動きがみられる。	
	(8月)	改善の動きがみられる。	

生産	(9月) <u>持ち直しの動きがみられる</u>	鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2020年=100) 出荷、生産、在庫、在庫率の推移を示す折線グラフ。2009年7月から2024年7月までのデータが示されている。在庫率は右側の縦軸で表示されている。																				
	(8月) このところ持ち直しの動きがみられる。																					
輸出	(9月) 持ち直しの動きに足踏みがみられる。	地域別輸出入数量指数 ①輸出 (2020年=100) <table><tr><td>全体</td><td>7月</td><td>+1.2%</td><td>3MA</td><td>▲0.3%</td></tr><tr><td>アジア</td><td>7月</td><td>+1.9%</td><td>3MA</td><td>▲0.7%</td></tr><tr><td>アメリカ</td><td>7月</td><td>▲2.2%</td><td>3MA</td><td>▲0.2%</td></tr><tr><td>EU</td><td>7月</td><td>+10.2%</td><td>3MA</td><td>+0.7%</td></tr></table> EU (10.3%)、全体、アメリカ (20.1%)、アジア (52.0%) の推移を示す折線グラフ。2008年7月から2024年7月までのデータが示されている。	全体	7月	+1.2%	3MA	▲0.3%	アジア	7月	+1.9%	3MA	▲0.7%	アメリカ	7月	▲2.2%	3MA	▲0.2%	EU	7月	+10.2%	3MA	+0.7%
	全体	7月	+1.2%	3MA	▲0.3%																	
アジア	7月	+1.9%	3MA	▲0.7%																		
アメリカ	7月	▲2.2%	3MA	▲0.2%																		
EU	7月	+10.2%	3MA	+0.7%																		
(8月) 持ち直しの動きに足踏みがみられる。																						
国内企業物価	(9月) このところ <u>上昇テンポが鈍化している。</u>	企業物価の推移 (2020年=100) 国内企業物価、輸入物価 (目盛右)、輸出物価 (目盛右) の推移を示す折線グラフ。2008年7月から2024年7月までのデータが示されている。																				
	(8月) 緩やかに上昇している。																					
消費者物価	(9月) 緩やかに上昇している。	消費者物価の推移 (連鎖基準、指数) (2020年=100) 生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合、総合の推移を示す折線グラフ。2010年7月から2024年7月までのデータが示されている。																				
	(8月) 緩やかに上昇している。																					
海外経済	(9月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、持ち直している。先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響による下振れリスクに留意する必要がある。また、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響を注視する必要がある。																					
	(8月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、持ち直している。先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響による下振れリスクに留意する必要がある。また、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響を注視する必要がある。																					

月例経済報告：内閣府